

第二十五回（令和元年度）

令和独楽吟

橘曙覧 顕彰短歌コンクール

第二十五回（令和元年度）令和独楽吟・橘曙覧顕彰短歌コンクールについて

福井に生きた幕末の歌人、橘曙覧（たちばなのあけみ）。曙覧が詠んだ一連の作品として『独楽吟』^{どくらくぎん}があります。

『独楽吟』は、「たのしみは」で始まり「…とき」で終わる形で詠まれた五十二首の連作の短歌で、貧しいながらも心豊かに日々を暮らしていた、曙覧の様々な楽しみが詠み込まれています。

平成六年、当時の天皇后両陛下がご訪米された折、クリントン大統領が歓迎スピーチにおいて、「たのしみは朝おきいで昨日まで無かりし花の咲ける見る時」の一首を引用されたことで、曙覧と代表作の『独楽吟』に注目が集まりました。

この翌年より「平成独楽吟」と称し、曙覧の『独楽吟』の世界に学び、何気ない日常の中で感じた身近な楽しみ、ささやかな楽しみを詠んだ短歌の募集を始め、平成の時代とともに回を重ねてきました。第二十五回を迎えた今回、令和への改元に伴い、「令和独楽吟・橘曙覧顕彰短歌コンクール」へ名称を改めました。また、過去六回（第十九〜第二十四回）続けてきました「テーマ短歌部門」も、「万葉集や実朝以来の歌人」と正岡子規に絶賛され、自由な短歌を好んだ曙覧にちなみ「自由短歌部門」に変更し募集しました。

今回、独楽吟部門に七三一四首、自由短歌部門には一〇三九首、両部門合計で八三三三首のご応募をいただき、一三四校より学校単位での応募がありました。たくさんのご応募ありがとうございます。

ここに入賞・秀作に選ばれた全作品を掲載いたします。全国から寄せられた、たのしみの歌、こころの歌をご覧ください。

審査員

独楽吟部門

市村 善郎（審査員長）

橋谷 桂子

佐孝 石画

足立 尚計

審査員

自由短歌部門

福島 泰樹（審査員長）

加賀 要子

喜多 昭夫

足立 尚計

主催 福井市・公益財団法人歴史のみえるまちづくり協会

共催 福井新聞社・NHK福井放送局

後援 福井県・福井県教育委員会・福井市教育委員会・

福井中央郵便局・福井本丸ライオンズクラブ

協賛 熊本市

独楽吟部門

橘曙覧賞

たのしみは継ぐとは言わず真っ先に店のシャッター子が開けるとき

神奈川県 井上

靖

独楽吟部門 入賞作品

福井市長賞

たのしみは雨上がりの日にふと空に虹の分度器出るの見たとき

福井県 野村 明日花

福井市教育委員会賞

たのしみはにわとりたまごうむすがたしずかにすわりこっそりみるとき

福井県 西原 紫紀

福井新聞社賞

たのしみは一番風呂をすすめられ湯舟の光汲み上げるとき

福井県 上井 貞雄

日本放送協会福井放送局長賞

たのしみはひとり子ついに嫁を得て港の埠頭に迎えに行くとき

広島県 和田 紀元

福井中央郵便局長賞

たのしみはあんよはじめた息子とのお出かけ先を考えると

福井県 御伽橋 蓮歌

熊本市賞

たのしみは引退後でも後輩が「先輩聞いて！」と話してくれるとき

福井県 酒井若菜

歴史のみえるまちづくり協会理事長賞

たのしみは九十こえたひいばあとなぞの会話でもりあがるとき

石川県 落合 梢

学校賞

福井県 坂井市立春江西小学校

福井県 鯖江市惜陰小学校

たのしみはおばあと二人経をよみ家族みんなを笑顔にするとき

福井県 岡本紀佳

たのしみは緑道すすむ足羽山汗ふく坂に風香るとき

福井県 石津稚弘

たのしみは正座して観る甲子園プレイボールのサイレン聞くととき

熊本県 中島大我

たのしみは老婦とふたり福井発新幹線に乗るを待つとき

福井県 橋本教専

たのしみは庭の檸檬の葉をかじる幼虫いつか空を舞うとき

福岡県 小田千代美

たのしみは日々育ちゆく七月の葡萄の棚の下を行く時

新潟県 小野眞智子

たのしみは前触れもなくひよっこりと卒塾生が顔みせるとき

兵庫県 上垣哲也

たのしみは父を見舞ひしその窓に明るき虹の二重なるとき

富山県 辻本直子

たのしみは自慢の一品持ち寄りて友と語らひ共に食むとき

徳島県 環 滋子

たのしみは野球の試合でホームランをスコアブックに書いているとき

大阪府 榎谷由衣

たのしみは亡妻に良く似たヘルパーの週に一度の介護受けるとき

静岡県 山下 修身

たのしみは家に帰ると弟がおはぎをたくさん作ってるとき

千葉県 平川 あめり

たのしみは大食漢の友人が私の悩みも完食するとき

熊本県 塚本 愛

たのしみは愛犬チロに話しかけ仕事のグチを聞いてもらうとき

福井県 島田 薫

たのしみは家に帰り晩ご飯母のまほうにかけられる時

福井県 穴田 真彩

たのしみはおとうさんとボール投げ投げたしゅんかん音になるとき

福井県 佐藤 比呂

たのしみは母がつくるみそしるがぼくの心をほぐしてくれる時

福井県 宮本 拓英

たのしみは庭にすんでるアマガエルいつ跳ぶいつ跳ぶ待っている時

岐阜県 石田 明日香

たのしみは水曜日だけ父が居る家族全員家に居るとき

長野県 茂澄 紫恵璃

たのしみは真っ赤な山にみとれてる授業中におこられるとき

福井県 中瀬 さく

自由短歌部門

橘曙覧賞

亡母が切りたる最後の稲藁を大根の畦にそっとかけゆく

福井県 後藤 由美子

自由短歌部門 入賞作品

福井市長賞

病みし目に微かな光得始めて夜勤看護婦初雪を告ぐ

兵庫県 小谷 徹

福井市教育委員会賞

AIも私もいまだ恋知らず春の講座は『伊勢物語』

神奈川県 合志 珠希

福井新聞社賞

たまゆらにふれしこころのやさしさはわすれなぐさのはなのいろなり

東京都 村上 京子

日本放送協会福井放送局長賞

床に臥す介護の母に祭り笛流れ来たれば手踊りをする

千葉県 小田中 準一

福井中央郵便局長賞

雇われの郵便夫来て戦争の終わりを知らず道灼けている

福井県 上井 貞雄

歴史のみえるまちづくり協会理事長賞

日暮れまで鋏を持ちいし母なりき古き写し絵に紅をさしやる

福井県 永田 弘子

重荷にはなりたくないとふるさとの母は独りの米をまだ研ぐ

福井県 中川 潔

いつもより高いところでポニーテール今日は私の誕生日だから

兵庫県 水速 飛鳥

眠る祖母くすぐる風は十七の勤労奉仕の唐黍畑

東京都 上田 真司

思い切り息吹き込んだクラリネット震える管と鳴り響く音

徳島県 松浦 朱里

子の去りし部屋の小瓶に黄のバラを挿して会話のひとつ浮かべつ

熊本県 志賀 直子

槌音は絶えることなく熊本は色付く銀杏によなの降り積む

熊本県 橋本 年美

秋蝶の舞う庭先の落葉掃く今日は命日父かと思う

福井県 松葉 貴代子

被災地の土砂を掻き出す瞳に映る楢円の球を追う男たち

鹿児島県 永野 由美子

群青の色鉛筆が見つからぬ嗚呼夏空に嫉妬したんだ

愛知県 水野 大雅

出張へ向かう列車で昼食は手紙のような妻の弁当

山形県 柏屋 敏秋

就活が望み叶いて笑む孫は世の荒波が被るを知らず

福井県 光岡 俊雄

「じゃあまたね」「また明日ね」と別れゆくあの若きらの確かな明日

福井県 米澤 幸枝

赤銅の顔にしたたる汗ぬぐい夫は帰るシイラ抱えて

宮崎県 梅田 貴子

遠き日の愛宕坂辺に亡き友が見し片栗ときふ蝶さがす

福井県 織田 香寿子

久訪へば一緒に寝るとふ小二の児ブナの幼木息するやうな

宮城県 畠山 みな子

「ごめんなさい」そのひとことが言えなくて窓の外から君を見つめる

福岡県 龍 敦子

トントンと妻がまな板たたたく音いつまで聞ける嬉しきこの音

福井県 中長 昌一

子が巢立ち音を無くした玄関に取り残された靴の哀しき

福島県 堀 卓

葉脈のようなみどりの筋きざむ羽ふるわせよ七日目の蟬

大阪府 畑中 秀一

さ緑の陽射し浴びつつ輝けり老樹の肌に芽の吹き出でて

三重県 柘植 欽也

「平成独楽吟」〈独楽吟部門〉旧名称 平成独楽吟部門

橘曙覧賞受賞作品

第24回（平成30年度） 山形県 湯乃村絃一

たのしみは出来たぞ孫がようやくに杉三代の苗植えるとき

第23回（平成29年度） 福井県 丸岡里美

たのしみは異国に働く夫の膝帰ればおさなの椅子になるとき

第22回（平成28年度） 福井県 田中美代子

たのしみは三代目の養子の雪つりに夫と似てきた姿見しとき

第21回（平成27年度） 福井県 山本 稜

たのしみは祖父のとなりで肩ならべ見よう見まねでろくろする時

第20回（平成26年度） 神奈川県 中嶋恭子

たのしみは庭に遊べる小鳥らに林檎の皮を厚く剥くとき

第19回（平成25年度） 福井県 堂島彩愛

たのしみはピカピカひかるかいだんをそうじおわって上から見るとき

第18回（平成24年度） 熊本県 志賀直子

たのしみは日の射す庭に小豆干す老父母いるを里に見るとき

第17回（平成23年度） 茨城県 田口久子

たのしみは洗濯物を六人の家族に分けてたたむひととき

第16回（平成22年度） 岡山県 信安淳子

たのしみは「めんどくせえ」と言いながら肩もむ息子と話すとき

第15回（平成21年度） 青森県 阿久津凍河

たのしみは漬物樽の大根に亡母のリズムで塩を振るとき

第14回（平成20年度） 奈良県 水谷あづさ

たのしみは日だまりの中眠る子の桜色した爪を切るとき

第13回（平成19年度） 東京都 加古 親

たのしみは昏き沖より還りきてわが家に灯る明かり見るとき

第12回（平成18年度） 石川県 白石葉子

たのしみは夫の守る溶鉢炉夜空染めるを窓に見るとき

第11回（平成17年度） 東京都 小竹 勉

たのしみはどろんこまみれの子供たち並ばせホースで水かけるとき

第10回（平成16年度） 福井県 愛宕茂雄

たのしみは福井豪雨のつめあとに耐えた棚田の実り刈る時

第9回（平成15年度） 福井県 濱野克則

たのしみは明けの3時に沖へ出で網引き終えて日の出見るとき

第8回（平成14年度） 茨城県 國島久美子

たのしみはママと言えた子抱きしめて次の言葉の出るを待つ時

第7回（平成13年度） 東京都 伊藤裕司

たのしみは固いネクタイひきぬいて深夜のホームで素振りする時

第6回（平成12年度） 福井県 河合昭一

たのしみは茜の雲に染められて明日刈る稲穂掌に計るとき

第5回（平成11年度） 福井県 森本真希

たのしみは時々校舎ですれちがうあなたにそっとあいさつするとき

第4回（平成10年度） 福井県 藤本新一

たのしみは枝打ち終えて天に伸ぶ直ぐなる杉を仰ぎ見るとき

第3回（平成9年度） 福井県 都筑明子

たのしみは吾子を抱いて胸あわせあたたかい命感じるとき

第2回（平成8年度） 愛媛県 今井順子

たのしみは我だけが知る胎動の生命のいぶき感じている時

第1回（平成7年度） 福井県 高尾セイ

たのしみは足跡の身を娘にゆだね薬湯にとっぷり浸りいる時

「平成独楽吟」へテーマ短歌部門 旧名称 一般短歌部門 (第6回より作品募集)

橘曙覧賞受賞作品

第24回 (平成30年度) 「テーマ…あの日」 千葉県 小林 功

母の背である日見上げた赤とんぼ今は背負った母と見ている

第14回 (平成20年度) 宮城県 佐々木 武

純白といふ重さ在于夕牡丹崩れおとしてなほ陽を支ふ

第23回 (平成29年度) 「テーマ…旅」 長崎県 牧野弘志

この道がバージロード父は娘の精霊船に寄り添って行く

第13回 (平成19年度) 愛知県 横井和幸

ふり返ることなどするなと歩みゆく眩しき春の病棟廊下

第22回 (平成28年度) 「テーマ…友」 福井県 岩崎大朔

十年前抱いた夢を持ち続け明日もお前と白球を追う

第12回 (平成18年度) 東京都 日下部濂太

育ちゆく銀河の立つるささやきか逝きし子あれば夜の耳敏し

第21回 (平成27年度) 「テーマ…家族」 千葉県 河野雅子

車椅子に息子を乗せし老夫婦鴨の群れゐる岸辺押しゆく

第11回 (平成17年度) 福井県 米澤幸枝

重なりて久々子の湖を抱く山のひだより白き霧昇りゆく

第20回 (平成26年度) 「テーマ…ふるさと」 千葉県 河野成実

ふるさとの駅をすぎれば車窓より子らの声なき学校の見ゆ

第10回 (平成16年度) 千葉県 旭 千代

乳房なきわが胸もとに指ふれて乙女は赤き羽根を挿したり

第19回 (平成25年度) 「テーマ…福井」 福井県 北野よしえ

台風は過ぎて秋晴れコシヒカリをひとかぶひとかぶ手で起こしやる

第9回 (平成15年度) 福井県 上山美穂

あかとんぼゆうやけぞらとおにごっこわたしもいれてあきのおにごっこ

第18回 (平成24年度) 千葉県 佐藤清子

汲みおきの水とり代える幸せを震災前は思い及ばず

第8回 (平成14年度) 岡山県 数井初実

紫陽花の雨のしずくが気になって集中できない午後教室

第17回 (平成23年度) 富山県 村沢清人

あるだけの飼料を撒き終え被曝地の養豚農夫去り難く泣く

第7回 (平成13年度) 青森県 成田涼平

夏休み祖母はいくさの話する空見上げれば雲走りゆく

第16回 (平成22年度) 長崎県 北村麻衣

笹の葉の中に揺れてる願い事就活の夏屋青々し

第6回 (平成12年度) 宮城県 男澤真紀

吾子の目は空に浮かんだ雲さえも夢の力で鯨に変える

第15回 (平成21年度) 福井県 朝日敏子

腑のひとつ無くしし吾のうつし身に触れくる柚子を湯船にすくふ